



alaクルーズ

創刊号
平成 14年 7月 27日



特集” a | aクルーズってなに？”

Part 1

alaクルーズってなに？

「alaクルーズ」は、可児市文化芸術振興財団と協力し、サポートボランティアスタッフとして活動している自主運営組織です。平成13年11月の設立総会以来、総勢 100 余名のメンバー

が、可児市文化創造センター「ala」をより市民のみなさんに身近な施設として活用できることを目指し、活動しています。

会員の志向する分野により、3つのグループに分かれて活動をしています。

alaクルーズの係わるイベント等の取材。広報紙の作成等を行います。

創造企画グループ

市民のみなさんが参加出来るイベント等のプランを考えます。

支援グループ

alaクルーズのイベント、又は文化芸術振興財団等の依頼があった場合、文化創造センターを訪れた方々の案内等を行います。

広報グループ

Part 2

どんな活動をしているの？

Part 2 - 2 活動報告

マナー講座

alaを利用される方々への接し方などを勉強しています。

レンガ作り

ala(アーラ)正面「水と緑の広場」周辺に敷き詰められるレンガに市民のみなさんがイラストや文字を描きました。

第3回うるおいコンサート

「きらめく春の響」

可児市在住の星順次さん所属の「名古屋プリリアントプラスクイーンテット」を招き演奏会を催しました。

今後自立したパートナー組織として文化創造センターの事業運営をサポートし、また施設活用のために独自のプロモーションを展開していきたいと思いません。そのためには、より多くの

市民のみなさまのご理解とご協力が必要です。芸術や文化振興に興味の有る方、活動を支援してみたい方は是非メンバーに加わってください。

Part 3

これからのalaクルーズ

マナー講座 フロントスタッフ研修

文化創造センターのイベントでお客様を接待するためのフロントスタッフ研修がはじまりました。5月～7月までの間に3回、支援グループを中心とした約40名がこの研修を受けます。朝9時～午後4時まで息つく暇もないほどの研修メニューです。

1回目は座学、理論編です。本当にこんな事ができるのか、と思うような内容ばかりで、気持ちは重く沈んでいきます。例えば、チケットのもぎり。お客様



人員配置の説明を受ける。各階のどの扉に誰...と細かく決められる。

にいらっしゃいませ」とにこやかに「挨拶をし、チケットを受け取り、内容を確認し、半券をもぎってお返りする。ここまで3秒しか時間の猶予はありません。こんな調子でどんどん講義は続きます。

2回目3回目は主劇場、小劇場を使っての、実務研修です。チケットのもぎり、遅れて来られたお客様への対応、ペンライトを使って劇場内の案内と、頭で考えなくても体が覚えているように、それぞれがスタッフとお客様の役になり、シュミレーション練習を繰り返します。そうすることで、気持ちに余裕ができ、心からの笑顔が出る。3度の研修を終えたスタッフの顔には、最初の頃の不安な表情が消え、少しはにかみながらも穏やかな笑顔が見られます。

この研修を通じて、講師の星



座席の配置を覚えるフロントスタッフ

野先生が、「お客様に気持ちよく過ごしていただくために...」この言葉を何度も何度も繰り返されました。それを考えれば、どう行動すればよいのかおのずと見えてくる。これがフロントスタッフのキーワードかもしれません。



劇場の中で、実際に動き回る。すべての事を熱心にメモする。

研修を終えて

～星野もと子先生～

3回のフロントスタッフ研修と試奏会を終えて、講師の星野先生にお話を伺いました。

開館を目前に控え、現段階での仕上がり具合は75%。その現状よりも、最初の段階から、ここまで来られたということが素晴らしいと思います。これもひとえにみなさんの努力と熱意の賜物です。

残された25%は、今まで積み上げてきた75%とは少し質が違

います。現時点では、やらなければならない事、研修を受けて覚える事は、既にできています。これからの課題は、いかに美しく整然と見せるか。これは意識の問題です。

今後は一人ひとりの意識の持ち方が、課題といえそうです。



研修後、疲れた顔も見せず、爽やかな笑顔で取材に応じて下さった星野先生。

フロントスタッフ実地研修 試奏会



開館が間近に迫り、急ピッチで仕上げが進んでいる可児市文化創造センター（アーラ）では6月19日、主劇場 宇宙のホール）の満席状態での音響効果を測定、調整の為に名古屋フィルハーモニー楽団を招いて試奏会が開催されました。当日は、市の関係者及び地元の中学校の生徒が招待され、生のオーケストラの演奏を楽しみました。

この試奏会はフロントスタッフへの実地研修でもありました。早朝より集まった会員は24名。朝礼後、各自に分担が知らされ、それぞれのポジションに付き、研修が始まりました。研修とはいえ、本番同様の状況で、全員やや緊張した面持ちで開演準備

が進められていき、講師の星野もと子先生も笑顔の中にも厳しさをもって指導されていました。

招待された中学生達は一旦駐車場に集合し、揃って入館しました。初めて見るアーラの内部の様子にあちらこちらから感嘆の声が上がり、みんな周囲や上を見上げていました。劇場ゲートでは、数百人の生徒達が一斉に殺到したにもかかわらず、フロントスタッフは研修通りに整然と、生徒達を劇場内に誘導していました。

入場した生徒達は内部の威容さに一瞬声を呑んでいましたが、その驚きの声はすぐさま、会場内われんばかりの状態となりました。場内至るところに設置された音響測定用のマイクがレベルオーバーで壊れるのではないかと心配されるほどでした。こんな状況で測定できるのかと不安でしたが、試験開始を告げるアナウンスに一瞬で静かになり、静寂の中で試験の為の電子音が「ポン」と何回か鳴って、測定が行なわれました。

名古屋フィルハーモニーの演奏はポピュラーな曲を中心に演奏され、また曲の合間には楽器の説明などもされていました。終演後も、スタッフのてきぱきとした案内によって混乱も無く帰路についていました。

こうして試奏会は終了しました。フロントスタッフの方達は本番同様の研修を終えて、大きな自信を得る事ができたように思います。オープニングに向けて、準備がまた一つ整ったように感じました。

緊張の面持ちで口上の練習をする担当者。



本番より大変？当日の打ち合わせスケジュール。



細かなところまで本番前に最終チェック。



いよいよ開場。緊張の一瞬。お客様が入ってこられたら、もう何も考える余裕はない。各自、担当ポジションで精一杯頑張るしかない。今までの研修の成果が出せるか…。

可見市文化創造センター *ala*

からのお知らせ

8/23^②

「大地の詩」

DALSHINOUTA

豊穣の会公演



和太鼓奏者・橋本光弘が率いる和太鼓を軸にしたプロジェクト「豊穣の会」。和太鼓は、極めて単純な楽器ながらその響は、時にはダイナミックであり時には繊細です。大地の鼓動を豊かに、奥深く。

時間●開場 18:30 ●開演 19:00

会場●主劇場

料金● S席 ¥3,000

A席 ¥2,500

(前売・当日共、全席指定)

●7月31日(水)一般発売開始！！

(ala インフォメーション、チケットぴあにて)

8/23^②・24^③

「ふたごの星」
音楽劇

宮沢賢治の童話を、演出家佐藤信が脚色・演出し、琉球音楽や琉球舞踏を効果的に使った、大人も子どもも楽しめる音楽劇。主演は、元宝塚女優の笹谷友子、チュンセとボウセという双子のお星様の冒険物語で、息を呑む暇もないほど素敵な趣向がふんだんに詰まった1時間35分のお話。

時間●23日：開場 18:30、開演 19:00

24日：開場 13:30、開演 14:00

会場●小劇場

料金●一般 ¥1,000 【当日 ¥1,500】

高校生以下 ¥500 【当日 ¥1,000】 (全席指定)

※発売中につき売切れの際はご容赦下さい。

8/24^③

伍代夏子コンサート

圧倒的な歌唱力で人気の演歌歌手、伍代夏子。演歌の真髄をお楽しみ下さい。

時間●I 開場 14:00 開演 14:30

II 開場 18:00 開演 18:30

会場●主劇場

料金●S席 ¥5,000

A席 ¥4,000

(前売・当日共、全席指定)

●7月31日(水)一般発売開始！！

(ala インフォメーション、チケットぴあにて)

8/31(土)・9/1(日)

9/21(土)

「動物図鑑(ウゴクモノズカン)」

ヒダマリオネットシアター

わくわくさんでお馴染みのNHK教育テレビ「つくってあそび」の造形演出を担当するヒダオサムが主宰するヒダマリオネット。演出に舞踊家の宇野萬を迎えて、幻想的な世界をマリオネットが生み出します。



時間●31日：開場 13:30 開演 14:00
1日：開場 13:30 開演 14:00
会場●小劇場
料金●一般 ¥3,000
高校生以下 ¥2,000
(前売+当日共、全席指定)
●7月31日(水)一般発売開始!!
(ala インフォメーション、チケットぴあにて)

「MORIYAMA JAZZ NIGHT 2002」

ジャズ界の榮譽・南里文雄賞の第27回受賞に輝いた、ジャズドラマー森山威男、山下洋輔、坂田明、ケイコ・リー、近藤勇之助らをゲストに迎えてのライブです。



時間●開場 18:00 開演 18:30
会場●主劇場
料金●S席 ¥5,000
A席 ¥3,000
(前売+当日共、全席指定)
●7月31日(水)一般発売開始!!
(ala インフォメーション、チケットぴあにて)

※以上の公演が先行予約で売切れの場合はご容赦下さい

ala
あそびの扉

ここではalaのさまざまなあそび空間を紹介します。

第1回

音楽練習室



音楽練習室①



音楽練習室②



音楽練習室③

ロック、ジャズの演奏などなど、少人数の音楽練習に最適なお部屋です。簡単な録音ができて、ドラムなどの楽器がいっぱい!

(利用料金 ¥1,000 /1時間)

お問合せ：(財)可児市文化芸術振興財団 0574-60-3311

市民ギャラリー
美濃焼のルーツ
可児の古陶展

文化創造センターには、美術品などを展示できるギャラリースペースがありますが、オープン記念事業として、このスペースで美濃焼の古陶展を行います。

この企画を担当するのは、「可児市が世界に誇れる美濃焼のルーツであるということ、多くの人に知ってもらいたい」そんな思いを胸に集まった創造・企画グループのメンバーです。

4月から会議を重ね、5月中旬には美濃焼の勉強会を兼ねて、久々利の郷土歴史館と豊蔵資料館へ下見に行きました。陶芸家でもありこの企画のメンバーでもある吉田氏から、展示品の説明を受けます。陶片とはいえ、デザインの新しさ、微妙な色合い、形の美しさ、只々ため息が出るばかり。可児市にこれほどすばらしい焼き物があることを、やはりもっと多くの人に知ってほ



豊蔵資料館の釜跡を見学する。

しい、その思いがより一層強くなります。しかし、この久々利郷土館と豊蔵資料館から、何点かをお借りして展示すると聞いた途端、メンバーに緊張が走りました。さらにその「お値段」を聞いて、責任の重さに不安もよぎります。万一の時のための保険、品物の運搬、展示中の管理等、まだまだ難問山積です。

7月に入り、案内看板の制作に取り掛かります。まず、30～50



資料で借りる展示品を確認する。由緒ある古陶ばかりで、神経を使う。

案内看板の制作風景。字を書くのに下書きはしない。見ている方が緊張する。周りを塗るのは、みんなで楽しくワイワイと。吉田氏の奥様にもお手伝いいただいた。



年ほど前に制作されたという古い和紙をつないで、長さ約3メートルの垂れ幕を作り、刷毛でタイトルを描きます。墨の代わりに、焼き物に使う蠟を灯油で溶いた液。字の周りは志野の赤茶のような色。これはポスターカラーの色を混ぜ合わせ、全員で塗ります。蠟で描かれた文字が色をはじいて、ろうけつ染めのような面白い効果が出ました。

こうして展示する作品やそれをより効果的に見せるための小道具まで、細部に渡ってこだわって準備されます。当日は、展示会場全体を美濃焼に対する深い理解と愛情が包み込んでいることでしょう。



////////// alaクルーズ活動中！ //////////

ロビー展示 プロジェクト

文化創造センターは、何年も前から市民と行政が意見交換を行いながら、設計をし建設が進められてきました。市民の意見があちこちに取り入れられた文化創造センターalaは、私たちの誇りであり、期待の星でもあります。全国的にみても、文化センター運営に設計段階から市民が関わった例はありません。そこで、これらの経緯を多勢の方に知ってもらおうと、ala建設への市民参加のあゆみを、様々な方法で展示する事にしました。

年表・パネル制作



掲載する写真を選ぶ小冊子チーム。写真は数百枚。分担しても容易ではない。

これまでの経過を年表とパネルにまとめました。

パソコン

パソコンでホームページを見るように、市民参加のあゆみをご覧ください。

パンフレット制作

alaクルーズの組織がわかります。アンケートにもご協力下さい。

ビデオ制作



展示するパネルを選ぶプロジェクトメンバー。今までの市民活動の歴史が刻まれている。

百聞は一見にしかず。映像は多くを語ります。映像シアターで27日、28日の2日間放映します。

小冊子制作

これまでの市民参加のあゆみを詳細に解説します。資料として保存していきます。



文化創造センターのロビーで展示スペースを確認する。実際にパネルを並べ、間仕切りを立て、協議を重ねる。

6月2日、総合会館分室2階ホールにおいて、平成14年度alaクルーズ通常総会が行われました。当日は、会員の他、文化創造センター館長、可児市教育長、名古屋大学大学院の清水教授を来賓にお招きし、14年度事業計画、予算案などが審議・採択されました。

また、alaクルーズ事務局員設置、活動に対するポイント制導入についても説明がなさ

れ、今後の活動もまた新たな展開を迎えそうです。

総会終了後には、桑谷館長の

alaクルーズ 平成14年度通常総会

講演会も開催されました。『市民参加と「alaクルーズ」への期待』という講演の中で、可児市の芸術・文化創造の担い手として、文化振興財団とalaクルーズがお

互いに補完し合いながら、よきパートナーとなっていきましょう、と熱い思いが語られました。



熱い思いを語られる桑谷館長

